

本稿は、1月27～28日に行われた自治労連第64回中央委員会での中央委員発言について、加筆・修正したものです。

# 1人の声から政治を動かす

## 春の統一地方選挙を歴史的な大転換点に

自治労連愛知県本部

最低賃金を下回る時給など、会計年度任用職員のひどい労働実態が多くの方から語られました。

日本国憲法は「生存権」を保障しています。法律が定める労働条件の基準は、「人間らしい働き方」を実現するものでなければならないのです。最低賃金法が適用除外でも憲法は適用されます。憲法の理念に反することは、憲法尊重擁護義務が課せられている首長、その他の公務員がやってはなりません。

憲法は、すべて国民は、法の下に平等であるとし、性別や社会的身分などにより、差別されないと定めています。

私は、会計年度任用職員制度は、人件費を削減するために、任用の違いにかこつけた、差別を温存させ固定化させるためにできた制度だと思っています。

### 「新自由主義」が公共を破壊した

いまだに日本社会にはびこっている「新自由主義」は、規制を緩和し、企業が自由に競争することが経済の活力と成長をもたらすと主張しています。

日本の企業は、競争力を高めるために人件費を削減して利潤をあげ、巨額の内部留保を

ため込みました。「新自由主義」は、国民の人権を保障してきた公共・私たちの仕事をぶち壊し、市場化をして金儲けの手段としています。大阪の維新政治はその典型です。

新自由主義路線という誤った道により、日本経済はダメになりました。公共が破壊され、弱者には憲法違反の最低限度以下の生活が押し付けられています。医療や保健所の現場は新自由主義で痛めつけられ、もともと脆弱だったのに、コロナ禍でも付け焼刃の対応しかとられていません。その結果、過酷な現状は発言があった通りです。

今こそ日本の進む道を変えなければなりません。岸田首相が進めようとしている歴史的転換は真逆です。

公務員を減らす。賃金を抑える。格差と貧困を広げる。少子化を止められない。日本を戦争できる国に変える。また原子力発電に頼ろうとしている。こんな政治は、根本から変えなければなりません。そのためには、私たちの要求が、声が、多数派になる必要があります。

### 「賃上げが必要」の声が圧倒的多数派に

賃金引き上げや処遇改善など、とりくみの

成果がたくさん報告されています。

愛知では、地域手当の支給がなかった蒲郡市職が、3%の地域手当を支給するとの回答を引き出しました。10月の最低賃金の引き上げに伴い、会計年度任用職員の給与格付けが上がり、高卒初任給と逆転現象を起こしました。地域手当の高い市町に囲まれ、人材確保に苦労していることも、かたくなだった蒲郡市当局の背を押したのだと思います。しかし一番の理由は、長年の労働組合のとりくみが地域手当の支給を求める市内世論を高め、その声が圧倒的な多数派になったことです。

今、潮目が大きく変わりました。賃上げが必要という声が圧倒的「多数派」になりました。今年の春闘は、あえて岸田首相の言葉を用いますが、文字通りの異次元の賃上げを勝ち取りましょう。

### 1人の声、1人の要求がみんなの要求に

愛知発の「子どもたちにもう1人保育士を！」のとりくみが社会を変えようとしています。現場の切実な声をアンケートで集め、可視化して、マスコミを動かしました。小さな声だった1人の声、1人の要求がみんなの要求となり、大きな声となったことで大きな共感呼び、ついに政治を動かし、政府はまだ不十分ですが予算措置を決めました。この行動に参加した保育士は、「自分の声で社会が動く、政治が動くという実感があります。選挙では、私の要求を実現できる自治体に変えたいです」と語っています。

春の統一地方選挙は、新自由主義の息の根を止める歴史的な大転換点にしましょう。

そのためにも、憲法学習を旺盛にすすめましょう。憲法を尊重し、擁護する立場で、自分自身の仕事がやれているのか、自治体、首

長はその立場にあるのか、国政はどうか、日々点検する必要があります。統一地方選挙は、憲法をいかす地方自治となっているか、職場から討議する重要なチャンスです。愛知ではその前哨戦として県知事選挙がたたかわれています。先日の支援行動に参加いただいた京都のみなさんを始め、推薦決定、檄布、カンパなど全国のみなさんありがとうございます。午後の行動では、私たちの要求をアピールするとともに、こんな愛知に変えたいという県民の要求を集め、投票行動に結び付け、愛知から日本を変えましょう。

従来型の労働組合活動ではない、新しい活動のスタイルが求められています。3Tアクションの貴重な経験、他にも教訓が多く語られました。切実な要求からつながる、みんなが共感し、自分事として立ち上がり、活動に参加する、若い世代、次世代も一緒に運動をすすめる、そんな春闘の取り組みにチャレンジしましょう。

みなさん、今日から足を前に一歩出して、元気に楽しく春闘をたたかい、安心の未来※、希望の持てる未来をつかみとりましょう。